
金 田 憲 治

議長（村松 積） 次に、3番、金田憲治君、質問を許します。登壇願います。

3番、金田憲治君。

3番（金田 憲治） 3番、金田憲治です。

通告に基づき、2項目の質問をいたします。

最初に、政権交代における村の行財政運営への影響についてお伺いしたいと思います。

第45回衆議院選の投票が、去る8月30日に実施され、長年続いた自民政権、いわゆる55年体制で終止符が打たれ、民主党における政権交代がなされました。

国民の求めるうねりの大きさに驚いた1人でございます。翌日の新聞各紙の見出しは、言葉の表現の違いがありますが、民主党の圧勝と政権交代でした。多くの国民が政権交代を選んだ理由は、自由民主党政権では安心して政権を任せられない、そういうところにあっただろうと思います。新政権はまもなく発足しますが、多くの国民が託した夢や希望を実現されるよう期待するものです。

本格的な政権交代は今回が初めてで、いよいよ2大政党制の実現に向けてのスタートラインに立ったところです。そのような観点からすれば、自民主党は敗戦の分析を十分に行って、国民側に立って再生をしていただきたいと思うところでございます。

さて、朝日新聞の世論調査によれば、民主党への施策の評価が驚くほど低く、特に財源確保については83%の方が「不安だ」と、こんなような報道がされております。私も民主党が掲げたマニフェストの執行に充てる財源が確実に確保されるのだろうか、一抹の不安を覚えるところでございます。

そこで3点ほどに絞ってお伺いをしたいと思います。

まず、第1点ですが、村の財源の6割から7割を占める依存財源が、小規模市町村に対して今後確保されていくのだろうかということでございます。民主党のマニフェストでは、これ地方分権を推進していく上で、基礎的自治体の充実は具体的には全国の基礎的自治体を300程度にすると言ってきた経過があります。そんなことで小規模市町村が、今後どのような対応がされるのかということでございます。

2点目は、生活や社会を支える施策についてですが、まず経済対策で特に補正を組んだ事業執行に影響が出てくるものがあるか否かでございます。あるとすれば村単で執行され

るのかお伺いをしたいと思います。

次に、今後予算づけされるであろう子供手当や農漁業に個別所得保障制度、高速道路の無料化等国民生活の立て直しを強調していますが、伊藤村長が今まで進められてきました方針に影響があるかどうか、そんなところをお伺いしたいと思います。

第3点目ですが、飯田市と下伊那郡下13町村が、互いに役割分担をしながら生活に必要な医療や公共交通などの機能を確保する定住自立圏づくりが本格的に進められております。制度の維持や財源の確保などに影響がどのように考えられるか、今の時点でお伺いをしたいと思います。

次に、危機管理のうち地震と新型インフルエンザについてお伺いいたしたいと思います。

まず、地震対応のうち緊急地震速報の活用のことです。

8月11日午前5時7分ごろ、駿河湾を震源とする地震により、本村でも震度4の大きな揺れがありました。私は寝室にいて、大きな揺れにあい、その揺れは長く感じました。不安が横切りましたが、身の安全を確保する。例えば机の下にといったその行動はとれませんでした。揺れ初めてすぐ緊急地震速報が流れ、事の重大さがよく分かりました。

地震時に発生する2つの波の特性を利用し、大きな揺れがくる前に地震の速報を流し、地震災害の軽減が図るのが緊急地震速報です。震源から距離が離れれば離れるほど対応時間が長くなります。

しかしながら、11日地震時には、大きな揺れが起こっている時に放送がなされました。揺れが起こる前に放送されるべき地震速報が遅れた理由と、その対策についてお聞きします。

また、今回の地震は、マグニチュード6.5、これは暫定ですが、マグニチュード8クラスと予想されている東海地震とは異なることです。規模は、マグニチュードが1違えば3.2倍、2違えば1,000倍にもなると言われております。さらに大きな揺れを受けることになります。

速報が流れたあとの行動をとれるか否かが災害軽減を図る上で重要であるため、防災無線を利用した徹底した訓練が必要であると思います。どのように今後対応されるのかお伺いしたいと思います。

次に、新型インフルエンザ対策についてでございます。

メキシコ発の新型インフルエンザは、欧米疾病対策センターが発表した数値によりますと、感染者が世界で15万人以上、死者は800人を超えているとのことですが、実際的には感染者の全数把握が物理的にできなくなっている現在、この何倍かの可能性が高いという報道がなされております。国内でも本件をも含む7人の死亡者が確認されたとともに、学校学級閉鎖等集団感染が多くなってきております。さらにこの秋、流行加速が予想されるとの報道でございます。1人でも感染者が出れば損失は計り知れないものがあります。なんとしても新型インフルエンザの予防に徹しなければなりません。

感染を予防するためにワクチン接種ができない今、手洗い、うがいの励行等実践するしかありませんが、言うは易し行う難しです。手洗い、うがいの習慣が特に大人に定着しておらないと考えます。そういうときに消毒する癖、習慣とまでいかない癖を作ることが大事だと考えております。

そこで簡単に消毒できるアルコール消毒のハンドジェル、これを全戸に配布し、消毒の周知徹底を図ることにより、手を消毒しなければいけないという意識が芽生え、ひいてはその積み重ねが手洗い、うがいの励行等に役立つものと考えております。

ハンドジェルを全戸に配布する、そういうようなお考えはどうかということで、村長のお考えをお聞きしまして、質問を終了いたします。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） お答えいたします。

金田議員の質問でございますけれども、政権交代における村の行財政運営の影響ということでございます。

政権交代、政権交代とマスコミを中心に多く騒ぎますけれども、基本的に次の政権を担う、これからの政権を担う方は、その中枢は誰だかという鳩山さんであり、それから藤井さんであり、それから岡田さんであり、要するに何をいわんかとする、自由民主党の中枢を担っておった皆さんでございます。政権交代といってもマニフェスト、いかにばらまきをするかという差はあるんですけれども、そんなに昔の自民党と社会党のような大きなブレはないわけでございます。あったら困るわけでございます。

そこで議員は、あったらどうするかということでございますけれども、一番困るのは財

政状況であろうと思います。私どもさつき依存財源が60%から70%、それはそのカウ
ントというのは非常に一方的な見方でございます、国が地域を保全するために国庫補助
というの、これとこれとこれをどうしてもやっくださいよとか、代行業務だとかいろい
るあるわけでございますけれども、私たちは地方交付税、地方交付税というのは本来本当
にスタンダードにやっていくためにはどうしても財政力が少ないと。これは地域格差があ
る。それを補てんして、みんなが同じレベルでスタートしていけるというのが、地方交付
税の本旨でございます。

これ非常に分かりにくいとか何とか言っておるんですけれども、本当にきめ細かくやる
と公式は非常に難しくなるわけでございますけれども、私も長らく携わっておって、
地方交付税制度というのは非常にいい制度。そして公平無比の制度であろうかと思
います。

この地方制度にどのくらい依存しておるかということでございますけれども、私
たちは12億円から13億円の範囲でございます。そういうところでございまして、この地方交
付税をがたがたがたがたとされては困るわけでございますけれども、小泉政権の時にはこ
この地方交付税を平均10%から15%減らしました。それでみんな疲弊しきっておるわけ
でございます、財政状況も非常に悪いということでございますけれども、私どもはいつ
も情報公開しておりますように、実質公債費比率、これは5.3が3.5になったというこ
とで、これは驚異的。単年度だけのこれを見てもマイナスが出るということで、3
年度平均で表示するわけでございますので、5.3が3.5になったということで、軽井沢
と要するにトップ争いができる状況になったということでございます。

それでそこから考えてみますと、例え最悪の状況、そんなことはあり得ないわけ
でございますけれども、今80市町村があるわけでございますけれども、あの財政状況、実質公
債費比率からやってみますと、これもすべての負債、基金を包括したものでござ
います。まだほかに後年度負担比率だとかいろいろ5項目が今年から公表されます。これは非常に
いいことございまして、地域の皆さんも「なんだうちはこんなふうだよと思ったらまだ
まだ大丈夫だと思ったらこれは数字見てみればまるで高いじゃないかとか」というような
ことが、直接分かるわけございまして、私は残念ながらもう10年前からあした情報
公開、数字公開をしておけば、今の町村はこんなにぬるま湯体質、水ぶくれに。今ものす
ごく締めておるんですけれども、ここへきて急に改めよといったってこれ大変なこと

ざいますけれども、そういうことがなかったかなと思っております。

県の財政のことも述べましたけれども、県も税収が5.8か減っております。ところが
うちは、財政力指数も少しずつではございますけれども、プラスに転じて今やっております
ところでございます。

少くらい同じ比率で下げられるんならば、数字的にいうならば、一番最後から2番目
に残るのが下條村であり、最後に残るのは軽井沢と、これが数字でございまして、これ
極端なその刺激のある言葉でございますけれども、どうなんだと言われたら私は例え仮に
また地方交付税が1億円「おい頼むぞ、減らしてくれ」と言ったらそれでも33年くらい
は持つということでございます。その間にまたさらに体質を良くしてやればいいわけでご
ざいまして、決してさっきも言ったように急激な変化、特に財政なんかがいくら豪腕の
壊し屋の小沢さんであろうと鳩山さんであろうと、藤井さんというのはこれは大蔵官僚の
上がりでございまして、すべて77歳でございますけれども、今度副代表になるんだか財
務大臣になるんだか分かりませんが、岡田さんも非常に数字にはシビア、切れる人
でございますので、そんなに心配はしておりませんし、もしそんなことをしたもんなら私
どもは今度また政権変わっていただかなければいけないということで、一生懸命やるつも
りでございますけれども、どうも今の政権、今の朝日新聞を含めてお話ありました。もう
自民党じゃ駄目だで民主党がすごいぞということで、一番最初に民主党の議席320
の取る勢いだというの一面に出したのが朝日新聞でございまして、半月ばかりに出しまし
た。だいたい当たったんですけれども、わっしょいわっしょいあおりたぐって。

そしてみんなも1票を投じた権利もあるけれど、義務あるんですけれども、民主党が今
度取ったら「取りすぎたんじゃねえかとかあんじゃねえか」とか、私ども危惧する面があ
るんですけれども、取ったら換え取ったら換え。自民党の政権の時もそうです。安部さん
ならもう日本は絶対明るいぞといったら、わーんとやって内閣支持率は70何%また駄目。
福田さんもまた半月も立たんうちにみんな引きづりおろす。

今度は、だいがその傾向もあるわけでございますけれども、それが果たして投票権を持
っておる国民の義務はそれで果たしておるのかと。もう少し慎重に考えて、民主党が悪い
とか自民党がいいとかそういうことでなしに、信念を持って選んだならその信念を持って
選んだ政党、そのグループをもう少しきっちりと支えてやるのがこれは民主主義の基本で

あろうかと思います。

何でも言いたい放題、無責任主義、足を引っ張るといふ、こんなことをやっておれば日本の明日はないわけでございますので、そんなことを感じております。

2番目は危機管理ということでございます。

下條村は、いくつもの危機管理対応として、特に10年くらい前には県の県警、自衛隊、それから建設業共済から始まって、炊き出しから一切やった経緯もあり、ここ1年ばかり前には包括医療の含めて医療体制のヘリコプターも出動してやりました。

いろいろやっておるんですけれども、今地震の時の話がありました。まさに意識改革、自己意識というの。私も実際に寝ておまして、がたがたときどきどっかうのおぼえに机の下でも隠れりゃいいなと思って見たら机がないわけでございます。本棚にはロープだけ張ってありましたので、ロープなくてもあれ落ちないくらいでございましたけれども、あれを体験したから今まで駄目だったなということが分かるわけでございますけれども、あれが阪神淡路大地震のような直下型できたら、あの時に既に終わりになっておるわけ。ザエンドでございますけれども、あれはいい予告であつたらうなということと同時に、どんなセレモニーをやっても自分の生命は自分で守るといふこの自意識がないと駄目でございます、そのことも痛切に感じました。

これからもそうした意識の中で、今度も各地域に落としてやったということはそういうことございまして、消火栓1つ消防の消火栓1つのやり方を覚えるだけでも非常にいいことであろうかと思っております。

あくまでこれは基本は、基本理念というの自分の命は自分で守る。その次に、本当に生活弱者、どういう体制で助けてやるかと。もう1つは、全体がどこで避難するかということ。これはマップはできておるんですけれども、もう一度これらこの前もうちょっとやりましたけれども、もう一度原点に返ってやる以外にはないのかなと思っております。

インフルエンザ、これは国も一生懸命やっております。

全地球的にやっております。タミフルだとかインフルエンザが割と効くということございまして、これも備蓄しておるわけでございますけれども、私聞いてみてそういうもんかなと思ったんですけれども、今度のワクチンでございますけれども、どのくらい効くかというのは、効くことは確かなんですけれども、どのくらいなもんであるかということは相手の

あることで、病原菌も微妙に変化していくということでございまして、今1,500万人、1,700万人くらいの国家備蓄はできるということでございます。しかし、やりようによっては倍の3,400人くらいのは今国産でありますよと、できますよということで、どういうことかといったら、インフルエンザのワクチンというのは、1回封を切ってしまうとなかなか持たないわけございまして、集団的にちょっと大きな入れ物でやってやると倍くらい、3,400万人くらいできるんだなということになると、私たちがそろえてみるそろえてみるということでなくて、それじゃ最悪の場合は今度は集団的にやりましょうという、我々の側にも責任があるわけでございます。

今、海外で出ておるわけでございますけれども、まだまだ海外未知の分野でございます。国内も完全に安全とは言えないということでございます。

これはタミフルの時も非常に問題がありました。発狂するとか精神不安定ということがありましたけれども、私も実際タミフルを飲んだことがあるわけでございますけれども、日常生活発狂しておるようなものでございますので、その差は出なかったわけで良かったと思いますけれども、あれはすごく効くということ。熱なんかふらふらするくらいあってもずっと下がるということでございますし、リレンザというのものもあるわけでございますけれども、そういうことでやるということと、各家庭へその消毒配るということですけども、これは私はどうも願けないと。今言うように困った家庭にはこれは配ります。配らないといけないと思ってやっております。

せめて家庭ではこの際手を洗う風習だとか、うがいする風習、これは私もやったことないんですけども、つけなければいけない。それで学校には置いてありますけれども、私はこのことについても若干問題あります。今までの生徒さん、外から帰ってくるとみんなこうやってじゃーじゃー手を洗って給食の前に手を洗ってやっております。これも教育であらうかと思えます。そのほか、図書館だとかいきいきランド、それから役場は玄関に置いてあるということでございまして、まず自分の周辺、自分自身を意識改革していただきたい。

千円ばかりのものを配ったってあんなのどうしようもないものでございますので、それは家庭であつたら手を洗う施設もあるわけでございます。それがどうしてもできないところはまた村で配るということで、このごろの風潮というのはばらまきが非常にはやってお

るわけですが、これが本当に将来その人の幸せになるかならないかという分岐点にもなるわけですので、必要なもの、自分にとって必要なものは自分で最小限取ります。駄目だったら行政やれと、こういう方式の方がいいかと思います。

それからもう1つ、いろいろやっておるんですけども、もう少し何かねえかと。その訓練にしても。そんなようなニュアンスでございますけれども、ぜひ何かねえかということの質問もいいんですけども、「俺はこう考えるけれども、これはどうだか」ということになると、「それは5年ほど前にやった」とか「それはいい方法だ」とかいうことで論点がぐっと上がるわけですので、ぜひまた提案の中にはそんなものも織り込んでいただければありがたいかなと思っております。

くどいようでございますけれども、一般論ばかり申し上げましたけれども、基本的には自分が絶対に自分の身を守ることでないと自分の命が持たないわけでございます。それから次にどうするかということ。山古志村や私小千谷市行って見ていただいて、非常に参考になったと思います。あのまだ阪神淡路大震災のあの淡路市の地震記念会館行くとあんなもんでなくてまたすごいもんでございますけれども、そういうこと。

そしてまた本当に弱ったら弱っちゃったなという人に対しては、集中的に村が支援するという形が一番長持ちすることであり、行政のとるこれからの変化大きい時代に行政がとるべきもっとも賢明な策であろうと思っておりますので、そんなことをご理解いただきたいと思っております。

それで答弁を終わります。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問ありましたら。

3番、金田憲治君。

3番（金田 憲治） 政権交代によっては、ほとんど変ないだろうと。あっても村事業の財政からすれば十分耐えられるということのことだったと思います。

それで2番目の地震の方なんですけど、確かに私もその行動をとれなんだうちの1人なんですけど。

いずれにしても、そういう訓練を1つこの行政無線を通じて、この何とかしてそのやっぱり消防が訓練すると同じように、我々もやっぱり訓練をしてさっとこの例えば火をつけていたらすぐ消せるようにとか、それからちょっと危険だったらすぐそういう机の下に隠

れるとか、学校だとかそういうところは非常にそういう訓練をしやすいわけなんです、なかなか家庭だとそういうのができない。本当にいいこの前は体験だと思いますので、ぜひ1つそんなことで村の方でも何回かそういうふうに決めて訓練をしていただければとありがたいなと、こういうように思います。

それからインフルエンザについては、今基本的に弱者に対してはやらなければいけないところはやるというんですが、ただ見ておるとなかなか私もそうなんですが、農業をやってきてすぐうちへ入ったときに、中まで入ってその手を洗うというのはなかなか大変なものですから、1つのその癖をつけるというひとつのものということで、ちょっとハンドシエルについて聞いてみましたら、容器含めて200円程度というようなことでございます。ただ、容器そのものは非常に少ない、今非常にないというようなことなんで、液だけでもこういうようなものを併用しながら、何とかその癖をつけていくという手はどうでしょうかということで、そんなことで再度ちょっとお願いをしたいと思います。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 実際うち入って手を洗っていただきますというのはほとんどやっていないと思いますけれども、これからどういうその病原菌。生活レベルが上がってくれば上がってくるほど、それに対していろいろ経験したことのないような病原菌が出てくるのは確かでございます。

そのために下條村は、それと同時に下條村独自では、老人の肺炎防止、これは県下でも初めてやっております。7,500円くらいかかるのが3,400円でやってあって、非常にデータとして効果が出ております。これは私はびっくりしたんですけれども、肺炎で死ぬ人がやった人の中で肺炎でくわすかでございます。これをやってくれというんだけど、なかなかやらないということ。

うちへ帰って手を洗うということ、今はできないかもしれないけれども、生命を維持するためにはその行為、ビタミンCを食ったりアリナミンを飲んだりすることも大事ですけども、基本として手を洗うということは、これはどうしても習慣づけていただかないと困るのかなということでございます。

それからちょっと今思い出したんですけれども、地震予知。これはある科学者が言っておりました。「地震予知というのは1つの例えでございますけれども、飛行機に乗るとき

にこの飛行機が落ちるか落ちんかというその判断よりもまだ難しい」ということを言っておりました。どうしてあんなことを、予兆のあるのも多分あるかと思えますけれども、あれは政府がどっかの業者に任せておいて、そしてその業者を怒鳴りつけておるけれども、基本的にはまだ未知の分野だそうでございますので、あれが全部分かっておりやそんな大したことはないんですけれども、そう簡単にそのプレートの移動なんていうのは、何億兆分のいくつぐらいで動いておることでございますので、相当精度のいいものでも分からないし、ぐっとプレートぐっと引っ張っておって、予兆がなくなったときにボンと外れるということがあるということで、なかなか難しい。

まさに飛行機に乗るときに落ちるか落ちんかの判断よりまだ難しいということ言っておいて、なるほどなと思ったわけございまして、私どもはああしたものには過信をしないように。

今度国も、いたずらにこの民心を攪乱するだけだということで、いくら考えて直しておるそうでございますけれども、また民主党がどういう見解出すか分らんですけれども、それはどうか信じない方がいいと思えますので、よろしく願います。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問は。

3番（金田 憲治） ちょっと忘れていましたが、先ほど地震速報が同時に流れたということでございますけれども、静岡県なんかは4秒前ぐらいに流れたということでございます。

これは気象庁から、いろいろなところを経てくる段階でやっぱり遅くなってくるかと思うんですが、その辺のものが早く流れるようになるかどうか、その辺はどうでしょうか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 静岡の例はもっとも順調な例だそうでございます。

プレート潜るときにいつもより何億分の1若干早いなど、おかしいぞという程度のもんでございます。これがそいじゃ止まればいいのかということでございますけれども、止まるということになると落ち着いて止まる場合とぐうっと張ってお互いに張っておって動かなくなるという事例もある。これが動いたときは大変でございまして、今までのマグマが一拳にごんと動くわけございまして、これは相当なマグマになってくると。そこが非常に難しいということでございます。

静岡の例も相当アバウトのともあるようでございます。静岡は今、東海沖地震の一番

強化地域で、徹底して今やっております。

そういうことで、それと同じものをやれということは、長野県ではそこまで必要ないわけでございますけれども、活断層もいくつもあるということでございますので、そこらも気をつけながら、そして最新の情報を得ながらやっていくつもりでございますので、またいろんな情報をご提供いただきたいと思います。